

こどもとしょかん 7-8月あかべえ展示コーナー

海の本・山の本

タイトル	著者名	出版社	
『うみのそこたんけん』	中川 ひろたか ぶん 澤野 秋文 え	アリス館	E/ウ
<p>海の底がみたいなおもっていると、心の声をきいたうみぼうずがあらわれて、海の水をすべてすいこんでしまいました。さあ、水のなくなった海の底をあるいてたんけんです。さて、どうなっているのでしょうか。</p>			
『海のひかり』	モリー・バング & ペニー・チザム 作 さくま ゆみこ 訳	評論社	E/ウ
<p>地上のいきものたちも、海のいきものたちも、命のくさりにつながっています。その命は、太陽のひかりが あつてのものです。目に見えないプランクトンから深海の動物まで、命のつながりをみつけながら、太陽のひ かりの視点から描いています。</p>			
『うみはおおきい うみはすごい』	かこ さとし 絵と文	社団法人 農山漁村文化協会	E/ウ
<p>「自然のしくみ 地球のちから」シリーズ。 うみのみずの量や重さは、想像がつかないほど大きいのです。また、うみのみずにとけているものは、無 数です。なみのできるしくみやうみの中のようすをわかりやすく説明しています。</p>			
『うみべのいちにち』	ナタリー・テュアル 作 イリア・グリーン 絵 とき ありえ 訳	講談社	E/ウ
<p>ロラとレオの海辺で遊んでいます。すなあそびで、すなが目に入ったり、シャベルをとりあつてケンカしたり 、すなをみずでかためてお城づくり。海辺でみかけるよくある光景ですが、仲の良い二人の帰り道の様子が 、ほほえましくなります。</p>			
『うみへいったひ』	相野谷由起 作・絵	ひさかたチャイルド	E/ウ
<p>「うみのなかってどんなかなあ」と思い、さかなにあいに、すいぞくかんへ行ってみた。すいそうをのぞいて いると、マンボウのたいぐんにまきこまれ、うみのなかへ。クラゲとあそんだり、サンゴのしたでおひるねしたり。 またいけるかな・・・。</p>			
『いもほりやま』	山岡みね 作・絵	岩崎書店	E/イ
<p>ぼくとおにいちゃん、おねえちゃんでもほりをしていたら、どこまでもつづくながいおいものつるをみつけ ました。どうぶつたちもひきつれて、つるのつづくさきをおいかけます。そして、じめんとうめられているつるを みんなでひっぱると・・・。</p>			
『あるくやま うごくやま』	かこ・さとし 著 赤羽末吉 絵	童心社	E/カ
<p>「かこ・さとし かがくの本」 山は、動かないものと思いませんか。山も人間のように表情を変え、形を変えていくのです。火山のち から、雨や雪、風のちからによって変わることがわかる本です。</p>			
『ナナカラやまものがたり』	どい かや さく・え	童心社	E/ナ
<p>ナナカラやまは、美しい自然豊かな山です。どうしてかという、いろいろな生きものがくらしているからで す。カナヘビやコジュケイ、ひつじやねこ、くまのおはなしが自然の大切なことをおしえてくれます。山は、い ろいろな命からできているのです。</p>			
『山をはこんだ丸ひきの竜』	松谷みよ子 文 司 修 絵	佼成出版社	E/ヤ
<p>いたずらずきの丸ひきの竜が、雨をふらせながら天からおりてきた。なにかやってみよう、山をはこぶことを 思いつく。山をちょんぎってはなげていると、人間界は大さわぎ。その様子を見て、またやりたくなる竜。しか し、それも続かず・・・。</p>			
『やまをつくったもの やまをこわしたもの』	かこ さとし 絵と文	社団法人 農山漁村文化協会	E/ヤ
<p>「自然のしくみ 地球のちから」シリーズ。 美しい山ができるには、何千年も何万年もの長い年月がかかります。地球の力や地下にどんなものがある かがよくわかる本です。</p>			